

平成24年度 宮城県仙台二華中学校・高等学校 学校イメージ調査の結果

本校では、平成22年度より東北大学大学院教育学研究科と連携し、生徒・保護者の本校に関する学校イメージ調査を実施してきました。本年度の調査結果がまとまりましたので、その概要を御報告いたします。調査に御協力いただきましてありがとうございました。

調査の目的

新年度のなるべく早い時期に学校に対する生徒・保護者の満足度、期待度を調査し、その結果をすみやかな指導や情報提供に活用するため。

調査の内容

実施時期：平成24年6月下旬～7月上旬

調査対象：中学校1年生，3年生，高校1年生，3年生とその保護者

調査内容：生徒 学校に対する学校全体・授業・生活全体の満足度
保護者 学校に対する学校全体の満足度と期待度

調査項目：選択式項目と自由記述式項目

分析内容：選択式項目 - 各学年の今年度の分析

中学及び高等学校新入生の3年間の継続的分析

中学及び高等学校3年生の3年間の経年的分析

自由記述項目 - 回答内容が多岐にわたるため、「教育理念」「カリキュラム」
「中高一貫」「教員」「授業」など計12カテゴリ別に集計

調査結果の概要（特徴がみられる部分のみ）

（1）授業全体に関する質問項目について【生徒のみ】

- ・中学生徒全体で、特に平均値の高い項目は、「授業はわかりやすい」、「質問に対し丁寧に答えてくれる」、「考査が難しい」である。
- ・中3生徒は、「授業の進み方は早く感じる」という項目において、授業の早さを年々感じなくなっていることがわかる。
- ・高1生徒の平均値の高い項目は、「質問に対し丁寧に答えてくれる」、「考査が難しい」、「授業の進み方が早く感じる」である。「授業が楽しみ」については他の項目と比べてやや低い値を示したものの、中央値である3を大きく超えており、全体的な平均値は高い。
- ・高3生徒は、昨年度との比較で、「授業が楽しみ」、「考査が難しい」といった項目の平均値が上がり、「授業の進み方が早く感じる」、「宿題が多い」といった項目の平均値が減少している。授業へのモチベーションや勉強に対するやりがいの高まりがみられる。

(2) 学校全体に関する質問項目について

【生徒満足度】

- ・中学生、高校生ともに学校全体への満足度は、中央値の3を大きく上回り非常に高い。
- ・中3生徒の学校全体の満足度について、満足度が特に高かった項目は、「友人関係」、「授業」である。満足度が相対的に低かった項目は、「クラスの人数」である。経年比較を見ると、昨年度との差が大きい項目は、「クラスの人数」である。中3年に進級するにあたり、クラス数の変更に伴ってクラスの人数が変化したことが原因であると考えられる。

【保護者満足度】

- ・中学生、高校生の保護者ともに学校全体への満足度は、中央値の3を大きく上回り非常に高い。
- ・高3保護者の経年比較をみると、ほとんどの項目で全体的に満足度が上がっている。

【保護者・期待】

- ・調査対象学年全体の傾向として、満足度も全体的に高いが、保護者の学校に対する期待度はそれ以上に高い。特に期待度が高い項目は、「教員の指導力」、「基礎学力の定着」、「大学受験のための学力養成」である。

また、中学生保護者と高校生保護者で差がみられるのは、「異年齢交流」である。中学生保護者の期待が大きく、高校生保護者の期待を上回っている。

(3) 生活全体に関する質問項目について【経年比較】

- ・新入生は中学、高校ともに全体的に学校生活に対する良いイメージを持って入学してきていることがわかる。しかし、「将来就きたい仕事」については例年、他学年に比べて低い値を示しており、入学の段階では、将来就きたい仕事について意思を固めている生徒が少ないことがわかる。
- ・高3生徒の経年比較をみると、昨年度までは大きな変動はみられなかったが、今年度は、学習に関しての「応用問題」、「教科学習」、「勉強好き」の項目の平均値が上がっている。また、「先生に分からないことを聞く」が上昇していることから、勉強に対する関心、態度が高まっていることがわかる。これは、受験勉強への意識の高まりとも考えられる。

(4) 自由記述について

生徒・保護者に共通して同じ傾向が見られたのは、入学して良かった点の「学校の雰囲気」、「周りの生徒の雰囲気」、「友人関係」である。特に、中学・高校とも1年生で、「新しい友人関係を通して自分自身が高まった」という記述が非常に多い。生徒自身がそのように感じているだけでなく、保護者にも同様の記述が目立つ。自分を高めようという意識が高い生徒が多く、生徒間相互で良い影響を与え合い、切磋琢磨するという望ましい学習環境の雰囲気であることがうかがえる。

以上